

令和7年度国立吉備青少年自然の家教育事業

われらの7日間大冒険

～吉備高原と犬島でのキャンプ～

事業報告及び調査研究報告



令和7年度8月3日～8月9日
独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立吉備青少年自然の家

目次

1. はじめに	p.1
2. 事業の紹介	
(1) 目的	p.1
(2) 事業の概要	p.1
3. 活動の内容等	
(1) 日程	p.1
(2) 活動の状況	p.2
4. プログラム開発のポイント	p.11
5. 成果	
(1) 満足度	p.11
(2) 参加者の声	p.11
(3) 運営について	p.12
6. 課題	p.12
7. 調査研究	
(1) 調査趣旨	p.13
(2) 被調査者	p.13
(3) 調査項目・使用尺度	p.13
(4) 調査結果	p.14
(5) 調査結果から見てきた効果	p.15
8. おわりに	p.17
あとがき	p.17

1. はじめに

本事業「われらの7日間大冒険～吉備高原と犬島でのキャンプ～」は、岡山の豊かな自然を舞台に、子供たちが仲間との協力や挑戦を通して心身の成長を遂げることをめざして実施したものである。吉備高原と犬島という異なる自然環境での活動、手作りイカダづくりを中心とした挑戦的プログラム、さらに自炊や振り返りを含む生活体験を通し、参加児童は6泊7日の中で多様な気づきと変化を積み重ねた。

本報告書では、自然体験を通して「生きる力を育む」、「成功や失敗の両方から学ぶこと」を調査の目的とし、これらのねらいが参加者にどう影響があったかを事前・事後・1か月後の3時点で実施した調査結果から、自然観や協力性、自己肯定感などの変化を客観的に示している。こうした実践と調査研究を一体的に扱うことは、より効果的な事業づくりに向けた重要な基盤となる。

近年、青少年教育施設は社会的役割の再定義を迫られ、持続可能な運営のためにも、各施設が自らの価値を示し続けることが求められている。国立青少年教育振興機構としても、青少年教育のナショナルセンターが果たすべき役割の重みは増しており、本事業はその「施設の存在意義」を示す一環といえる。実践の質を高め、その効果を確かな根拠とともに社会に示していくことが欠かせない。

本報告書が、全国の青少年教育施設において、事業改善や調査研究の推進の一助となり、子供たちにより豊かな体験の機会を届けるための参考資料となれば幸いである。

2. 事業の紹介

(1) 目的

小学4年生から6年生までの子供たちが、自然の中で宿泊や様々な体験を通して心と体の成長を促すことを目的とし、異年齢の仲間と協力しながら課題に取り組む中で、コミュニケーション力や他者への思いやりを育むとともに、慣れない環境での挑戦を通して自己肯定感や非認知能力を養う。

(2) 事業の概要

- ① 期日
令和7年8月3日（日）～8月9日（土）6泊7日
- ② 募集対象・人数
全日程に参加できる小学4・5・6年生
- ③ 参加人数
18人

3. 活動の内容等

(1) 日程

日程	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
8月3日						受付	開会式	オリエン テーション	昼食	仲間づくり		ロープワーク	テント設営	つどい	夕食	暗闇探検		入浴	振り返り 就寝
8月4日	就寝	洗面 清掃	つどい	朝食	移動	カッター			昼食	ロープワーク	火おこし体験	野外炊事	つどい	同左		振り返り	入浴	振り返り 就寝	
8月5日	就寝	洗面 清掃 準備	つどい	朝食	移動		フェ リー	入所	昼食	イカダ設計 海水浴 スイカ割り				夕食		入浴	振り返り 就寝		
8月6日	就寝	洗面 清掃	つどい	朝食		シーカヤック		昼食（そうめん流し）		イカダ作成 海水浴				夕食		入浴	天体観測 振り返り 就寝		
8月7日	就寝	洗面 清掃	つどい	朝食		イカダ出航		昼食		振り返り ストーンクラフト アート巡り			野外炊事		入浴	振り返り 就寝			
8月8日	就寝	洗面 清掃	つどい	朝食		清掃	フェ リー	移動		昼食	振り返り 新聞づくり 手紙作成 イカダ（予備日）			つどい	お楽しみ会		入浴	振り返り 就寝	
8月9日	就寝	洗面 清掃	つどい	朝食	準備 点検		発表準備		発表	閉会式									

(2) 活動の状況



1 日目【オリエンテーション】



1 日目【仲間づくり】



2 日目【テント泊】



2 日目【カッター体験】



2 日目【野外炊事】



2 日目【暗闇探検出発前】



3 日目【犬島へ出発】



3 日目【犬島へ出発】



3 日目【天体観察(犬島)】



3 日目【天体観察(犬島)】



3 日目【チキンラーメンをいただきました(犬島)】



3 日目【島探検(犬島)】



3 日目【記念撮影(犬島)】



6 日目【流しそうめん】



4 日目【スイカわり】



4 日目【自炊】



4 日目【旗づくり】



4 日目【イカダ作成】



5.6 日目【イカダトライアル・出航】



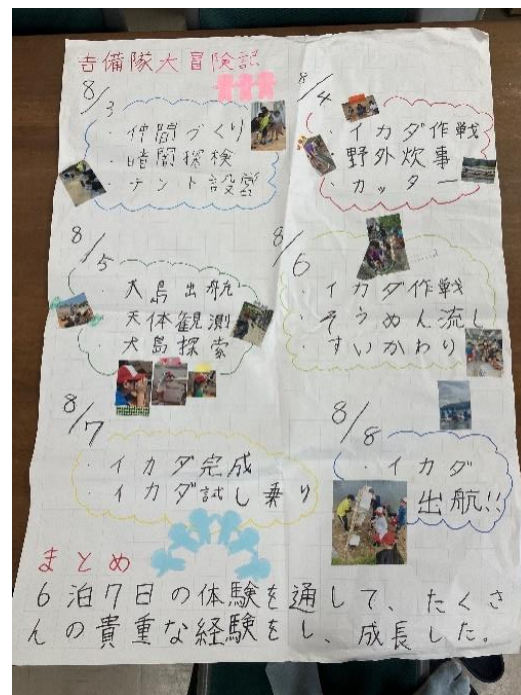
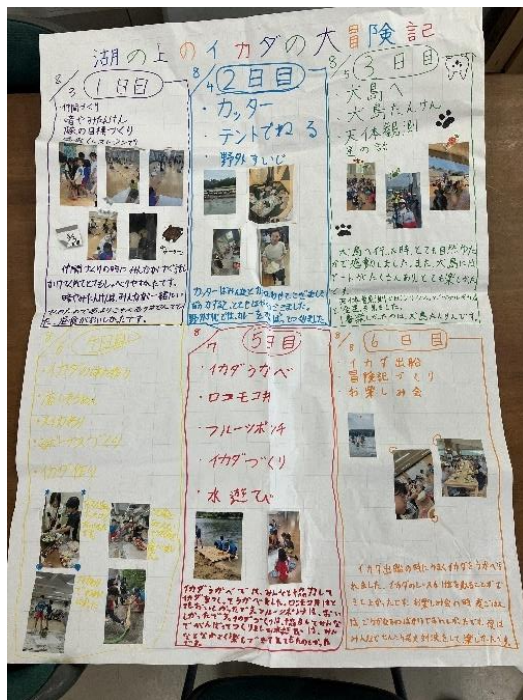
5.6 日目【イカダトライアル・出航】



6 日目【振り返り】



7 日目【新聞発表】



7日目【新聞発表】



7日目【閉会式】

大冒険の〇〇

3つの
あ

あいさつ
あとかたづけ
あんしん・あんぜん

3つの
やくそく

- ・自分のことは自分でする
- ・何事にもチャレンジする
- ・みんなのことを考えて行動する

わたしの
目ひょう

使った物は
使う前よりも
きれいにする。

-3-

隊の目ひょう

海の上のイカダ (隊名) の目ひょう

- ・ご飯をいっぱい食べてスタミナをつける。
- ・みんなで行動する。
- ・みんなの考えを聞いて自分もその立ち場で考える。
- ・10分前行動、5分前集合。
- ・けがをしないで楽しむ。

-4-

1日目
8/3

スケジュール

大冒険のはじまり

時間	活動	場所	メモ
10:30	開会式	多目的ホール	
11:00	仲間づくり	多目的ホール	
12:00	昼食	レストラン	持ち物：薬
13:30	仲間づくり	多目的ホール	
15:00	ロープワーク	多目的ホール	
16:00	テント設営	多目的ホール チャレンジルーム	
17:15	夕べのつどい	つどいの広場	
17:30	夕食	レストラン	持ち物：薬
19:00	暗やみ探検	多目的ホール	
20:00	入浴	浴場	
21:00	ふり返り	多目的ホール	
22:00	しゅうしん	多目的ホール チャレンジルーム	

ふり返り

- ・体調 5・4・3・2・1
- ・今日の気持ち 5・4・3・2・1
- ・自分の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1
- ・隊の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1

ロープワークで3つのむすび
方を学べた。暗やみ探検
で暗い場所だったけど、み
んなで楽しくいけました。
テントをたてる時にみんな
協力してたてることができた。

ちゃんこ
~
~
~

-8-

【しおり】

2日目
8/4

スケジュール

大冒険のはじまり

時間	活動	場所	メモ
6:30	起床	多目的ホール チャレンジルーム	
	洗面・清掃		
7:15	朝のつどい	つどいの広場	持ち物：薬
7:30	朝食	レストラン	
9:00			
12:00	昼食	レストラン	
13:30	イカダ作戦		
15:00	火起こし体験	チャレンジルーム	持ち物：軍手・薬
16:00	野外炊事	チャレンジルーム	
19:00	ふり返り	多目的ホール	
20:00	入浴	浴場	
22:00	しゅうしん	多目的ホール チャレンジルーム	

ふり返り

- ・体調 5・4・3・2・1
- ・今日の気持ち 5・4・3・2・1
- ・自分の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1
- ・隊の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1

明日の大島に1日しか行けな^ひい^たし、
たけど、切りかえて、いこうと思っ
ました。今日のみんなで、作^つったカレー
がとってもおいしく、たし、カッター
をみ^みなで、力を合^あわせてできたのも
よかったです。

明日は-8℃です-

- 10 -

3日目
8/5

スケジュール

大冒険に出かけよう

時間	活動	場所	メモ
6:00	起床・洗面	多目的ホール チャレンジルーム	
6:30	朝食	チャレンジルーム	持ち物：薬
	片付け	多目的ホール チャレンジルーム	
8:00	出発	玄関前	
10:00	フェリー		
11:00	到着	犬島自然の家	
11:45	調理・昼食	ちゅうぼう	持ち物：薬
14:00	イカダ設計		
	調理・夕食	ちゅうぼう	持ち物：薬
	入浴	浴場	17:00~21:00
21:00	ふり返り		
22:00	しゅうしん	- 11 -	

ふり返り

- ・体調 5・4・3・2・1
- ・今日の気持ち 5・4・3・2・1
- ・自分の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1
- ・隊の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1

犬島自然の家で星を見たり、
太陽を見たりした。うちゅう
はとっても広いことが
分かった。シリウス、ベテルギウス、
金星の名前が分かった。犬島でい
る人々をたのしくして来た。

明日も楽しもうね!!

夜が楽しみ!!

り、く
あ、あ

- 12 -

【しおり】

4日目
8/6

スケジュール

大冒険に出かけよう

時間	活動	場所	メモ
6:30	起床・洗面	宿泊室	
7:15	朝のつどい		
7:30	朝食	ちゅうぼう	持ち物：薬
9:00	シーカヤック		
11:00	そうめん流し	ヒロティー	持ち物：薬
	イカダ設計		
	調理・夕食	ちゅうぼう	持ち物：薬
	入浴	浴場	
	ふり返り		
	しゅうしん	宿泊室	

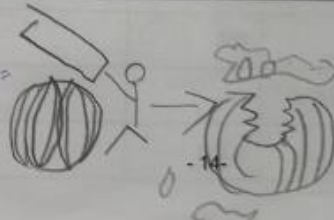
-13-

ふり返り

- ・体調 5・4・3・2・1
- ・今日の気持ち 5・4・3・2・1
- ・自分の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1
- ・隊の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1

そうめんながしがたの
しゅうたです。つめたくて
とてもおいしかったです。
スイカ割りもたのしか
たです。一番さいはで
あたりました!!

明日は
いかに
達成度を
上げるか
頑張ろう!



ふりかへ

ふり返り

- ・体調 5・4・3・2・1
- ・今日の気持ち 5・4・3・2・1
- ・自分の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1
- ・隊の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1

きょうは、イカダにのって
みました。さいしょは、な
かなかすまなかつた
けれど、とちではよくす
まようになつてきました。
あと1泊2日だけですけど
んかです。たのしみです。

イカダがういておもしろい。
明日も頑張ります。

ふりかへ

-16-

【しおり】

6日目
8/8

スケジュール

大冒険のしめくくり

時間	活動	場所	メモ
6:30	起床・洗面	宿泊室	
7:15	朝食	ちゅうぼう	持ち物：薬
8:30	清掃		
9:30	出発		
10:00	フェリー		
12:30	昼食	レストラン	持ち物：薬
	ふり返り		
17:15	夕べのつどい		
	お楽しみ会		持ち物：薬
20:00	入浴		
21:00	ふり返り		
	しゅうしん	宿泊室	

(昨日) 大冒険、たのしかった〜
とるは体最初 全然話せばいいけど
今日の朝の話を
きいてうれしかったヨ!!
お家いって、ふり返り、休んで!!
ちゃんこ!!

ふり返り

- ・体調 5・4・3・2・1
- ・今日の気持ち 5・4・3・2・1
- ・自分の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1
- ・隊の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1

今日自分の目ひょうのみんな
と仲よくなるというのが
イカダ出航のときうれし
かった。でも今日も安全に
活動できてよかった。ちゃん
ことちゃんとかえってきた!!

明日最後だから楽しんでしま
りあとかたづけしておわ
りたい。



- 18 -

6日目
8/8

スケジュール

大冒険のしめくくり

時間	活動	場所	メモ
6:30	起床・洗面	宿泊室	
7:15	朝食	ちゅうぼう	持ち物：薬
8:30	清掃		
9:30	出発		
10:00	フェリー		
12:30	昼食	レストラン	持ち物：薬
	ふり返り		
17:15	夕べのつどい		
	お楽しみ会		持ち物：薬
20:00	入浴		
21:00	ふり返り		
	しゅうしん	宿泊室	

ふり返り

- ・体調 5・4・3・2・1
- ・今日の気持ち 5・4・3・2・1
- ・自分の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1
- ・隊の目ひょうの達成度 5・4・3・2・1

カッターをこいで、レースをして
一位になれてとてもうれし
かったです。いひんがアイスで
とてもうれしかったです。あしたで
最後なのは悲しいけれど、最
後までちゃんとがんばります!!

(いひん) がんばって!! (いひん) がんばって!!
(いひん) がんばって!! (いひん) がんばって!!
(いひん) がんばって!! (いひん) がんばって!!

Tutor

- 18 -

【しおり】

4. プログラム開発のポイント

- (1) 参加者が岡山の夏を満喫できるよう、季節感を重視した活動プログラムを多数企画した。
- (2) 公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団が主催する「自然体験企画コンテスト2025」の助成金を獲得し、安定した運営体制を確保した。
- (3) 岡山市立犬島自然の家の協力を得て、吉備高原と瀬戸内海の両方を活用した活動プログラムを企画するとともに、両施設間の相互理解の促進にもつなげた。
- (4) 岡山市立犬島自然の家での3泊4日のプログラムは、天候等の悪化に伴い日帰りでのプログラムに変更したが、瀬戸内海で予定していたイカダ活動を当所の「鳴滝湖」で実施するなど、参加者の安全安心を踏まえつつ、弾力的な運営に努めた。
- (5) イカダ活動に向けて、職員と法人ボランティアが事前に試作と試走を重ね、手作りイカダに適した材料の選定を進めるとともに、水上でのイカダの動きや特性の把握に努めた。また、制作の流れを工夫し、参加者・職員の負担を軽減できた。
- (6) イカダ活動中の監視と救助の体制を確保するため、岡山県渋川青年の家から小型の動力艇とシーカヤックを借用し、職員が常にイカダと伴走する対応を整えるとともに、地元の漁業協同組合に依頼し、沖合での監視と救助に漁船を借り上げるなど、地域の関係機関から多くの支援や協力を得て取り組んだ。
- (7) 事業期間中は自炊での食事を多く取り入れたが、栄養の摂取を中心とする食事と調理活動として取り組むことを中心とする食事に区分し、簡便な料理から本格的な料理まで幅広い自炊の機会を設定した。
- (8) しおりに自分の目標、隊の目標を書き、毎日振り返りを行ったあとに、法人ボランティアがコメントをようにすることで、参加者の健康面や精神面の変化を適切に把握できるようにした。
- (9) ネッククーラーや塩分を含んだ飴などの熱中症対策品を配付するとともに、食後は休憩の時間を設け、昼間は屋内に活動場所を変更するなど、熱中症の予防に努めた。
- (10) 離島に所在する岡山市立犬島自然の家での活動期間中は、外部委託により専属の看護師を手配し、参加者や法人ボランティア、担当職員の適切な体調管理に努めた。

5. 成果

- (1) 満足度：100%

(2) 参加者の声

- ① このキャンプに行ってよかったと思いました。2年前に行った桃チャレとは違う世界を見ることができました。本当に楽しかったです。
- ② 楽しかったし、またあったら参加したいと思った。
- ③ 最初は、1週間長いなと思っていたけど、キャンプが終わった時1週間短いなとおもってまたキャンプしたいなと思いました。
- ④ ロープの結び方を学べたからそれを活かしていきたい。またみんなに会いたいです。
- ⑤ 最初は緊張したけど、みんなと過ごしている間に前よりもっと人と接するのが上手くなった気がする。
- ⑥ 来年も行きたいな、次も当たったらいいなと思いました
- ⑦ 隊以外の人々ともたくさん協力ができました。
- ⑧ 恥ずかしかったけど友達が出来て嬉しかった。
- ⑨ カッターを息を合わせて漕げた。
- ⑩ 友達と協力して出来た。
- ⑪ 家のお手伝いを心がけるようになったし、身長が少し伸びたきがしました。
- ⑫ カレーを作れるようになった。
- ⑬ 最初は怖かったけどだんだん慣れてきて楽しかったです。⑭ 新しく友達が出来て、その友達と初めての事に挑戦したり、協力して物を作ったりできて、良かった。このキャンプのおかげで成長できた部分があった。この7日間のキャンプが一生の思い出に残った。他にもキャンプに参加したい。

(3) 運営について

- ① 水上での「手作りイカダレース」をメインの活動とし、準備段階としてカッター体験やロープワークを行った。学んだことを活用し、すべての隊が手作りイカダを完成させ、レースに参加することができた。
- ② 海で浮かべる予定だった手作りイカダは天候等の悪化に伴い実現できなかったが、当所（吉備中央町）の「鳴滝湖」で安全に浮かべて活動することができた。
- ③ 岡山市立犬島自然の家や地元の漁業協同組合の協力を得られることができたため、当所単独で実施するよりも充実した運営体制をつくることができた。
- ④ 夜の自炊・入浴・振り返りの時間は初めこそ慌ただしかったが、隊内で協力し合い、日を追うごとに流れが整い、スムーズに進行できるようになった。
- ⑤ 最終日には7日間の振り返りとして「冒険記」（手作り新聞）を隊で作成し、閉会式前に保護者の前で発表した。6泊7日で頑張ったことなどをしっかりと発表でき、保護者にも成果として見せることができた。
- ⑥ 保護者宛てに手紙を書き、7日間を自宅から離れて過ごした子供たちが保護者へ感謝の気持ちを伝える機会となった。
- ⑦ 地元新聞社（2社）による記事掲載と Web ニュース、Instagram での広報のみで定員を超える参加者を得ることができた。
- ⑧ SNS を活用し、活動の様子を保護者に随時共有することができた。
- ⑨ 広島国際大学の社会教育実習生にも協力いただき、より充実した事業となった。

6. 課題

- (1) 本事業は天候の都合上、会場を変更することを余儀なくされた。天候等の理由で会場が使えなくなる場合も考え、代替案をしっかりと検討するようにしたい。
- (2) 実施中に他の研修団体の利用があった研修室の利用に制限があった。
- (3) 開催日時が法人ボランティアの定期試験や就職活動と被っていたため、募集が難しかった。次回はボランティアの日程も考えながら調整していきたい。
- (4) 暑さ対策を十分して事業に臨んだつもりではいたが、暑さのせいで体調を崩す参加者がいた。今後さらなる対策を検討していきたい。

7. 調査研究

本調査研究におけるデータ分析及び「（５）調査結果から見えてきた効果」の執筆については、国立青少年教育振興機構青少年教育研究センターの矢野康介客員研究員に協力を依頼した。調査研究の内容は以下のとおりである。

（１）調査趣旨

本事業では、自然体験を通して「自然を好きになること」、挑戦や協力の経験を通して「生きる力を育むこと」、さらに「成功や失敗の両方から学ぶこと」を大切にプログラム展開を行った。本調査の目的は、これらのねらいが参加者にどのような変化として表れているのかを客観的に把握し、今後のプログラム改善に生かすことである。そのため、令和7年度教育事業「われらの7日間大冒険～吉備高原と犬島でのキャンプ～」の参加者を対象に、次の3点について調査・分析を行った。

- ・事業前・事業後・事業1か月後の3時点でのアウトカム指標の変化
- ・体験内容（挑戦、協力、自然との触れあい等）が、各アウトカム指標とどのように関連するか
- ・SPS（感受性特性）の程度によって関連が異なるか

（２）被調査者

被調査者は本事業の参加児童18名（小学4～6年生・男女9名ずつ）であり、事業前（開会式直後）・事業後（閉会式直前）・事業1か月後の3時点で質問紙調査に回答した。なお、2名は事業1か月後の調査に回答しなかった。

（３）調査項目・使用尺度

①アウトカム指標（3時点測定）

次の6指標について、事業前・事業後・事業1か月後の3時点で測定した。

- ・自然との一体感（下川・廣瀬，2017；項目例：わたしは、わたしと自然は近いような気がする）
- ・自然保護意識（下川・廣瀬，2017；項目例：わたしは、自然を守るべきだと思う）
- ・共感性（村上ほか，2014；項目例：ほかの人のちょっとした表情の変化に気づく）
- ・自己肯定感（国立青少年教育振興機構，2024；項目例：いまの自分が好きだ）
- ・成功願望（田中・山内，2000；項目例：わたしは、自分にとってけっこう難しい問題はやってみたくになります）
- ・失敗恐怖（田中・山内，2000；項目例：わたしは、自分がきちんとできるかどうか分からないことには心配になります）

②アウトカム指標の予測変数

ア) SPS（事業前に測定）（岐部・平野，2020；項目例：自分の生活に変化があるのは好きではない）

イ) 体験内容（事業後に測定）（西田ほか，2002）

- ・自然との触れあい（項目例：おいしい空気をすったことがあった）
- ・挑戦・達成（項目例：これまでにやったことのないことに挑戦したことがあった）
- ・他者協力（項目例：たくさんの人たちと協力したことがあった）
- ・自己開示（項目例：人に自分の気持ちを伝えることができたことがあった）
- ・自己注目（項目例：自分のわがままさを考えたことがあった）

(4) 調査結果

① 時間に伴う各アウトカム指標の変化

次の5つの指標において、時間の経過に伴って得点が上昇する傾向がみられた。

- ・ 自然保護
- ・ 自然との一体感
- ・ 共感性
- ・ 成功願望
- ・ 自己肯定感

一方、「失敗恐怖」については統計的に有意な低下や上昇はみられなかった。

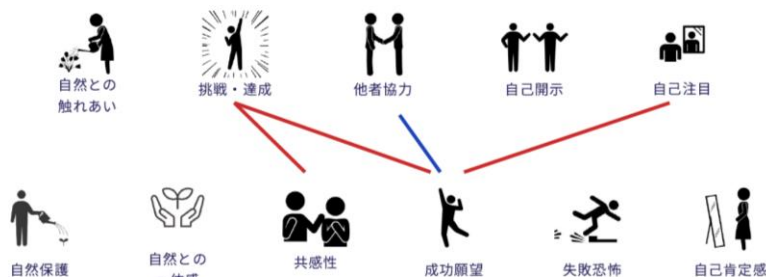


※赤色の矢印：正の関連／矢印の記載なし：有意な関連なし

② 各アウトカム指標と関連する体験内容

体験内容と各指標との関連を分析したところ、次の点が明らかになった。

- ・ 「挑戦・達成」体験の多さ → 「共感性」の高さと関連
- ・ 「挑戦・達成」体験の多さ、「他者協力」体験の少なさ、「自己注目」体験の多さ → 「成功願望」の強さと関連



※赤：正の関連／青：負の関連／記載なし：有意な関連なし

③ SPS の個人差を踏まえた、各アウトカム指標と関連する体験内容

SPS が低い場合、体験内容との関連に次の違いが見られた。

- ・ 「自然との触れあい」体験の多さ → 「自然との一体感」の高さと関連
- ・ 「自己開示」体験の少なさ → 「成功願望」の低さと関連



※赤：正の関連／青：負の関連／記載なし：有意な関連なし

(5) 調査結果から見えてきた効果

以上の分析結果より、本事業の効果について、大きく 3 つの観点から考察を試みる。

第一に本事業の参加児童たちは、自然保護意識、自然との一体感、共感性、自己肯定感、成功願望の各指標において、時間の経過に伴う有意な得点の向上を示した。これらの結果より、自然体験やグループでの協力、普段はしない活動への挑戦などを通して、「自然を好きになること」、「生きる力を育むこと」、「成功や失敗の両方から学ぶこと」という本事業の狙いがおおむね達成できたものと考えられる。

第二に、SPS の程度にかかわらず、共感性や成功願望といったアウトカム指標に対して、「挑戦・達成」体験や「自己注目」体験がポジティブな効果を持つ可能性が示された。本事業ではイカダづくりなどの活動を通じて、グループのメンバーと困難な課題を共有したり、それによる達成感を経験したりすることで、他者の視点に立って当事者の気持ちを考えようとする「共感性」や、チャレンジ精神を包含する「成功願望」の向上につながるのかもしれない。「自己注目」体験の効果については、活動の中で「日常生活で生じる困難な課題を避けがち、または諦めがちな自分」について内省し、イカダづくりの達成を通じて、その後の日常で経験する困難への心理的な障壁が低減することにより、結果的に「成功願望」の向上につながる可能性がある。一方で、「他者協力」体験の多さは、成功願望の低さと関連していた。グループのメンバーと協力したという感覚が過度に強い場合、イカダづくりに対する自身の貢献度を過小評価し、達成感を得られにくいことから、結果的に困難に対するチャレンジ精神が育まれにくいかもしれない。

第三に、SPS が低い場合には、自然との一体感に対して「自然との触れあい」体験がポジティブな効果を持つこと、成功願望に対して「自己開示」体験がネガティブな効果を持つことが示唆された。前者において、SPS が高い場合に有意な関連が認められなかった要因として、SPS と事業前の自然との一体感との中程度の正の相関が指摘できる

($r = .37$)。すなわち、SPS が高い場合には、活動に参加する前から自然との一体感が高い傾向にあるため、活動の中で自然と触れあうことが効果的に機能しなかった可能性がある。後者について、本調査から詳細な要因を推察することは困難であるが、先行研究においても、感受性が低い場合には、「自己開示」体験がメンタルヘルスと有意な関連を示さなかった (Yano et al., 2025)。これらの知見も含めて考えると、感受性が低い児童にとっての「自己開示」体験は、アウトカム指標に対してポジティブな効果を持たないのかもしれない。

以上の示唆や推察をまとめたうえで、実践における留意点を考察すると、(1) グループごとに困難な課題に挑戦し、達成する過程を通じて、共感性や成功願望の向上が期待できる。また、(2) 活動中に行われる振り返りの時間には、日頃の自分の振る舞いも併せて考えたり、グループ活動における自身の役割や貢献について意識したりすることで、成功願望を高めることにつながるかもしれない。(3) SPS が低い児童の場合には、自然との触れあう機会を多く設けることで、自然との一体感を高める可能性がある。

最後に、SPS が低い場合、自身の意見を積極的に開示することが、成功願望を低減することが示唆されたが、グループ活動において積極的な意見交換は歓迎されることが多く、指導者側から児童の自己開示を抑制することは現実的な方策ではないと考えられる。このことを踏まえると、(4) SPS が低い児童においては、(1) や (2) において既述した、「挑戦・達成」体験や「自己注目」体験の機会を特に意識することで、「自己開示」体験による成功願望へのネガティブな効果を抑制することが有効かもしれない。

本調査の課題として、データ分析において、「体験内容→アウトカム指標」(例: 「挑戦・達成」体験が多いほど、成功願望が高い) という関連性を想定したうえで結果の考察を行ったことが挙げられる。実際には、変数間の因果関係を特定できていないことを考慮すると、「アウトカム指標→体験内容」(例: もともとの成功願望が高いほど、

積極的に挑戦するため、「挑戦・達成」体験が多くなりやすい」という関連性に基づく解釈も可能である点には留意する必要がある。また、事業の参加児童のみを対象としているため、今後は事業に参加しない児童（いわゆる統制群）との比較も行うことで、事業の効果をより精緻に検討することも有益である。

【参考文献】

- 岐部智恵子・平野真理（2020）．日本語版児童期用敏感性尺度（HSCS-C）の作成 パーソナリティ研究, 29, 8-10.
- 国立青少年教育振興機構（2024）．青少年の体験活動等に関する意識調査（令和4年度調査）．
- 村上達也・西村多久磨・櫻井茂男（2014）．小中学生における共感性と向社会行動および攻撃行動の関連：子ども用認知・感情共感性尺度の信頼性・妥当性の検討 発達心理学研究, 25, 399-411.
- 西田順一・橋本公雄・柳敏晴（2002）．児童用組織キャンプ体験評価尺度の作成および信頼性・妥当性の検討 野外教育研究, 6, 49-61.
- 下川直哉・廣瀬直哉（2017）．児童期後期における子どもの自然観 生態心理学研究, 10, 13-22.
- 田中あゆみ・山内弘継（2000）．教室における達成動機，目標志向，内発的興味，学業成績の因果モデルの検討 心理学研究, 71, 317-324.
- Yano, K., Endo, S., & Oishi, K. (2025). An organized camp and mental health: Moderating role of environmental sensitivity. *Journal of Applied Developmental Psychology*, 98, 101783.

9. おわりに

本事業は、参加した子供たちだけでなく、運営スタッフにとっても忘れられない冒険となりました。当初予定していた犬島での宿泊活動は天候の影響により中止となりましたが、「子供たちに最大限の冒険を届けたい」という思いのもと、犬島への日帰り活動や鳴滝湖でのイカダ活動へと活動場所を変更しながら実施しました。

プログラムの大幅な変更を余儀なくされる中でも、職員、ボランティア、社会教育実習生、関係機関と連携し、力を合わせて事業を進めることができました。特に、子供たちが自ら製作したイカダを湖に浮かべ、仲間と協力して漕ぎ出す姿は印象的で、困難な状況を乗り越えて挑戦するたくましさを感じました。

また、調査研究では、自然との一体感や自然保護、共感性、自己肯定感などの向上が確認され、本事業の教育的効果を示す結果が得られました。さらに、仲間との絆や困難を乗り越えた経験は、数字では測れない大きな成果であり、子供たちの今後の成長を支える貴重な財産になると考えています。

最後に、本事業を支えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。今後も本事業の成果と課題を生かし、より充実した体験活動の実現に努めてまいります。

企画指導専門職付係員 福永 萌

あとがき

当所では、平成29年度から令和5年度までの7年間、「桃太郎チャレンジキャンプ」という小学生を対象にした6泊7日の長期事業に、コロナ禍の時期も内容変更を重ねつつ取り組んできました。この事業は、「おかやま桃太郎ものがたり～吉備津彦と温羅～」にゆかりのある史跡や場所を、子供たちがテント泊やロングウォークなどを行いながら7日間をかけて巡る旅でした。その後、1年間の未実施期間を経て、岡山県の山や森、海や島などの豊かな自然環境を舞台にした事業へと発展させたのが、本事業へ至る道程です。

本事業では、手作りイカダの活動を取り入れたことで、県内の公立青少年教育施設や地元の漁業協同組合から協力・支援を得る機会となりました。また、これまで広報活動を行ってこなかった県北部地域の地方紙へも積極的に情報提供を行い、県内外から募集定員を上回る応募者を得ることができました。さらに、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団が主催する「自然体験企画コンテスト」に初めて応募し、同財団からご贈呈いただいた実施支援金により、本事業の安全管理体制を充実させることができました。

本事業実施後には、当機構の青少年教育研究センターへ依頼し、参加者アンケートの分析を行っていただきました。これも当所にとっては初めての試みでした。分析結果の詳細は本文に記載のとおりですが、SPS（感受性特性）が低いとされる児童が本事業のような長期事業に参加する場合、指導者側が参加者の「自己開示」体験とどのように関わっていくことが効果的なのかという点については、複数年にわたる継続した取組結果の比較・検討が必要であると考えております。

本事業への取組は日が浅く、まだまだ形として発信できることは多くありません。そうであるからこそ、複数年にわたる継続した取組を積み重ねていくことが大切であると考えております。

引き続き、当所の事業運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

所長 安達 拓人

【連携団体】

- ・岡山市立犬島自然の家
- ・岡山県渋川青年の家

【協力・関係団体】

- ・広島国際大学 実習生
- ・犬島町内会
- ・朝日漁業協同組合
- ・株式会社あけぼのマリタイム
- ・株式会社アテンダントナース
- ・株式会社プラスワンインターナショナル
- ・国立青少年教育振興機構 青少年教育センター
- ・吉備ウーリーズ（国立吉備青少年自然の家法人ボランティアグループ）

【後援・取材】

- ・山陽新聞社
- ・津山朝日新聞社
- ・備北民報社

【助成】

- ・公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団

発行:国立吉備青少年自然の家

発行日:2026 年 3 月



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立吉備青少年自然の家

〒716-1241

岡山県加賀郡吉備中央町吉川 4393-82

TEL:0866-56-7232 E-mail:kibi-senmon@niye.go.jp